

魅力ある刈谷

～住みよい、住み続けたい刈谷市を目指して、

◆市民文教委員会（10月12日～14日）

- 新潟県糸魚川市 子ども一貫教育について
- 石川県かほく市 かほく市ママ課の取り組みについて
- ※石川県金沢市 学生のまちの推進について

◆建設委員会（10月19日～21日）

- 東京都府中市 スマートインターチェンジについて
- 千葉県千葉市 道路インフラの長寿化計画について
- ※神奈川県 史跡小田原城址本丸・二の丸整備基本構想について
- 小田原市

学生が愛着を感じるまちづくりの推進
 ～学生・地域・行政による市民協働～
 市民文教委員会委員長 白土 美恵子

目的
 愛知教育大学を初め、多くの学生が集う刈谷市の魅力向上のため、金沢市における学生のまちの推進について、具体的な施策を学ぶ。

視察内容
 平成22年に学生のまちとしての伝統と誇りを継承発展させ、希望と活力に満ちた魅力あふれるまちづくりのために「金沢市における学生のまちの推進に関する条例」が制定された。条例に基づき、学生のまち市民交流館を市が運営し、そこで学生が地域住民と交流しながらまちづくり活動に関わっており、3者の協働でまちが活性化している。

感想・成果
 市民交流館では、コーディネーターを配置し、学生に対するまちづくり活動の相談窓口を設置しているが、住民登録の手続きの方法等、日常生活における相談も一元的に受け付けており、学生が安心して生活できていることに感心させられた。金沢市の取り組みを参考に、学生時代を刈谷市で過ごした方が今以上に刈谷に愛着を感じ、刈谷を定住地として選び、また刈谷市を「第2のふるさと」と思っただけのように、大勢の学生との交流を深めることができる施策が重要であると感じた。



市民交流館の交流ホールで学ぶ

市民参加型による歴史的建造物復元の取り組み
 ～小田原城馬出門の石垣修復整備に学ぶ～
 建設委員会委員長 加藤 廣行

目的
 亀城公園歴史的建造物復元について、議会での十分な審議を尽くすため、復元整備の手法、市民の理解を深める取り組みを学ぶ。

視察内容
 小田原城址周辺は、国の史跡に指定され、適切な保存・活用が求められている。文化庁との協議結果を反映させた史跡整備の基本指針「本丸・二の丸整備基本構想」に基づき、平成17年から20年に馬出門の石垣復元が伝統工法及び当時の材料を用いて行われている。工事の見学会では、石垣の裏込めに使われる栗石に市民の名前を記入してもらうなどの市民参加イベントも開催されている。

感想・成果
 本市では、多門櫓、隅櫓、石垣、土堀、土塁の復元計画がある。小田原市との歴史的背景は違うかもしれないが、生まれ育った郷土の歴史や文化を後世に伝えていく役割を担っていることは共通と感じた。また、小田原城の復元整備は、市民参加型の事業を計画しながら進められており、市民から好意的に捉えられている。今後、本市においても市民参加型の事業を展開するほか、城下町・宿場町の風情が感じられる整備を行っている小田原市に倣い、地域あげでの活性化に繋げていく必要がある。



復元された小田原城馬出門

市とすするため

各委員会で先進都市を視察～

※印が掲載した項目です。

◆福祉産業委員会（10月19日～21日）

- 東京都板橋区 板橋区立企業活性化センターについて
- 千葉県木更津市 きさらづ健康マイレージについて
- ※東京都中央区 介護ロボットの活用状況について
- 東京都八王子市 障害のある人もない人も共に安心して暮らせる八王子づくり条例について

先進的に介護ロボットを導入する施設を視察
 ～介護職員の職場環境の向上に寄与する～
 福祉産業委員会委員長 佐原 充恭

目的
 本市でも介護ロボット導入促進費の補助が始まったことから、先進的に介護ロボットを導入している施設を視察し、機能や効果を学ぶ。

視察内容
 特別養護老人ホーム「新とみ」では介護職員の職場環境の整備と利用者の生活の質の向上を目的に、国からの各種補助制度を活用しながら積極的に介護ロボットを導入している。本視察では、実際に施設職員がロボットを使用しているところを見せてもらうだけでなく、議員みずからロボットを装着するなどの体験をすることができた。

感想・成果
 「新とみ」には力仕事を補助するロボット、利用者の見守りを行うロボット、感情認識ロボットなど、様々なロボットが導入されていた。特に動作補助装置のマッスルスーツは腰に負担のかかる介護者の負担軽減には最適であると感じた。急激な高齢化の進行に伴い、介護ニーズは急増しており、介護士の定着率の低さも問題となっている中で、介護ロボットの積極的導入が望まれるが、過度に依存するのではなく、介護士の育成とバランスを取りながらベストミックスさせていくことが重要だと感じた。



マッスルスーツで腰の負担軽減を体験

◆企画総務委員会（10月12日～14日）

- 神奈川県厚木市 公共施設最適化の推進について
- 千葉県佐倉市 地域防災力向上の取り組みについて
- ※千葉県我孫子市 広報戦略による魅力発信について

広報戦略による魅力発信の取り組み
 ～メディアを活用したシティセールス～
 企画総務委員会委員長 伊藤 幸弘

目的
 若い世代の移住・定住促進に繋がるシティセールスを積極的に展開している我孫子市の広報戦略を学び、本市の魅力発信に活かす。

視察内容
 我孫子市では広報戦略を具体化するため、秘書広報課内に「あびこの魅力発信室」を設置し、室長に元アナウンサーを起用して経験を活かしたPR活動を展開している。具体的には、市民参加によるシティプロモーション映像やCM動画の制作、YouTubeやSNSによる魅力の発信、テレビやラジオの利用など様々なメディアを活用した魅力発信を展開している。

感想・成果
 刈谷市もまた、まち・ひと・しごと創生総合戦略で「若い世代が生涯の居住地として選択し、将来に明るい希望を抱くことができるまち」を目指しており、シティセールスによる魅力発信は、その実現に向けた最前線の取り組みとなるため、全庁各部局が一丸となって情報収集に努め、多様な広報媒体を効果的に駆使し配信して行くことが必要。更には、本市の魅力を全国に広く発信するため情報技術のノウハウを磨く必要がある、その強化には我孫子市のような専門プロモーターの配置も検討すべきと感じた。



我孫子市のシティセールスに学ぶ

委員会の動き

委員会では、議案、請願、陳情の審査のほか、主に次のことが話し合われました。

企画総務委員会

刈谷市まちなかマネジメント構想（刈谷駅北口周辺エリア）
 構想の事業が実現されるまでの期間は、
 〔答〕 刈谷駅北口周辺の10年、20年先を見据えた今後の基本的な方向性を示すために策定したもので、期間については明記していない。
 〔問〕 刈谷駅北口周辺エリアで電線類の地中化の予定はあるか。
 〔答〕 刈谷駅前線の道路形態を見直す中で電線類の地中化を実施していく。
 その他「駐輪場の放置自転車対策」「職員の時間外勤務の状況」「刈谷市の選挙記録」などが話し合われました。

建設委員会

刈谷駅北地区整備事業における事業計画
 〔問〕 現計画案では、人の動線が非常に窮屈に感じられる。また、トイレの記載がない。ハイウェイオアシスに学び刈谷のトイレット文化、おもてなしの心をもつて計画の改良をしようか。
 〔答〕 人の動線確保については、今後実施する建築計画に反映できるように事業者と協議を重ねていく。トイレについては、事業者が設計を進める中で、設置の検討をするという。
 その他「公共駐車場」「道路の空洞調査（刈谷城）（仮称）刈谷スマートインター」などが話し合われました。

福祉産業委員会

かりや健康マイレージ
 事業の目的は、
 〔答〕 若者から高齢者まで、健康に関心が高い方はもちろんのこと、今まで生活習慣や健診の必要性を意識してこなかった方にも、楽しみながら健康づくりを取り組むきっかけとしてもらうことを目的としている。
 〔問〕 周知の方法は。
 〔答〕 9月1日号の市民だよりへの掲載や市ホームページ等で周知を行い、福祉健康フェスティバルを初めとした様々なイベントでも周知を図っている。その他「強度行動障害者支援」「高齢者医療費助成」「TTP」などが話し合われました。

市民文教委員会

学校給食費の改定
 〔問〕 過去に給食費を見直した経緯は。
 〔答〕 平成元年の消費税導入、平成4年の食料費の高騰、平成12年の学校給食用米穀値引き措置廃止等の際に改定してきた。
 〔問〕 今回の値上げを契機に、地元食材をさらに活用してはどうか。
 〔答〕 地元食材による食育や、魅力ある給食の提供は大切であるため、今後も活用を検討する。その他「特別支援学校の進捗状況」「修学旅行の現状」「子ども会への支援」「病児・病後児保育事業」などが話し合われました。

議会イベントックス

◆議会運営委員会で先進都市を視察
 日時 平成28年10月26～27日
 視察項目 災害時の議会対応について
 視察先 埼玉県春日部市、東京都文京区
 目的 災害時における議会対応マニュアル等を作成するため、各議会の取り組みを調査する。
 視察内容 災害時行動の手引について、策定及び改正を重ねた経緯と内容の説明を受けた。
 感想・成果 災害時の議会対応について、発災期、初動期、中期、後期と時期を分け、活動内容が整理されていた。発災期・初動期においては職員が対応に専念できるように配慮し、議員は地域での救助や救援に努め、中期・後期においては議会の機能を停止することなく、議決機関としての機能を果たすことが規定されていた。
 本市議会においても災害時の組織体制を定めるなど、今後、対応マニュアル等の作成を進めていきたい。



災害時の議会対応について学ぶ



議場で記念撮影